

ISSN 2186 – 3989

## 学術集会開催報告

### 日本トリプトファン研究会第41回学術集会

(41th Annual Scientific Meeting of Japan Society for Tryptophan Research)

2022年12月24日(土)～12月25日(日) 担当校：北陸大学

(開催場所：金沢勤労者プラザ)

薬学部 講師 池田 啓一

北 陸 大 学 紀 要  
第55号(2023年9月)抜刷

## 学術集会開催報告

日本トリプトファン研究会第 41 回学術集会  
(41th Annual Scientific Meeting of Japan Society for Tryptophan Research)  
2022 年 12 月 24 日 (土) ~ 12 月 25 日 (日) 担当校：北陸大学

(開催場所：金沢勤労者プラザ)

薬学部 講師 池田 啓一

日本トリプトファン研究会 (JSTRY) は、『日本におけるトリプトファン (Trp) ならびに関連物質に関する諸分野での研究を推進し、併せて研究者相互の情報交換、交流、親睦を図る』(JSTRY 会則第 2 条、昭和 58 年 12 月 10 日) ことを目的とし発足された [1]。第 1 回目は、1976 年に神戸学院大学にて開催され [2]、国際トリプトファン学会が開催される年を除き、毎年開催されている。本学術集会は、本学紀要での前回報告の通り、対面での第 39 回 (2019 (令和元) 年 12 月)、2020 年度 (2021 年 2 月頃) の延期、初のオンライン開催での第 40 回 (2022 (令和 4 年 2 月)) を経ての対面開催となった [3] (表 1)。

表 1. 日本トリプトファン研究会学術集会の開催状況

開催年度	回数	実施年月	備考 (感染拡大)	担当回
2019(令和元)	39	2019.12	対面	—
2020(令和 2)	中止	2021.2→延期	コロナ禍 (第 3 波)	○
2021(令和 3)	40	2022.2~3	対面予定→オンライン (第 6 波)	
2022(令和 4)	41	2022.12.24/25	対面 (第 8 波)	
2023(令和 5)	42	2023.12 (予定)	対面で開催予定	—

<学内リソースの活用> 本学のリソースは、以下のように活用した。Gmail: 参加呼びかけ、報告、その他連絡、Google form: 参加登録、演題登録、YouTube: 薬学部、医療保健学部 (新学科含む) の PR (本学作成動画)

<金沢の PR> 金沢市観光協会に御了承いただき、講演要旨集での HP (金沢旅物語) へのリンク、講演要旨集表紙への写真素材の利用を行った (図 1) [4]。

<対面開催までの道のり：コロナ禍と大雪> コロナ禍に突入し、2020 年の開催延期、2021 年度のオンライン開催 (第 40 回、2022 年 2 月)、そして 2022 年度の対面開催 (第 41 回) と、対面実施まで 3 年を要した [4]。前回 (第 40 回) の学術集会開催報告 [3] で触れた、収容定員 50% 以下の制限は、今回は解除されての開催となった [5]。ただし、未だに解決していない新型コロナウイルス感染症の感染拡大への対応として、感染症法において 5 類感染症に移行する前であったことから、設定されている会場のルールに沿って、万全の感染対策を行い実施した。参加者個々人の感染対策に関しては、参加登録時から各自十分な対策を行うよう呼びかけをしていたことに加えて、参加者全員にコロナ禍での感染対策についての数年の蓄積があったこともあり、本会に起因する新規感染者を出すことなく終えることができた。

本会は 12 月の開催であったことから、金沢では雪や融雪によりブーツの着用が必須となることが予想されたので、事前に「必ず足首までは隠れるブーツを用意してください」と呼びかけを行った。開催直前から全国的な大雪となり、本地域を含め多くの地域で生活や交通機関へ

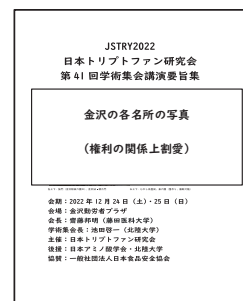


図 1 講演要旨集表紙

の影響があった。本学においても、授業を休講にせざるを得ないほどの影響があった。このような状況により直前になって開催が危ぶまれたが、開催期間両日とも、金沢が雨の予報であったことから、参加者には無理な参加はせぬよう呼びかけを行った上で、予定通り開催に踏み切った。前乗りされた参加者については、開催前日の金曜日が荒天であり、移動が大変だったこと、当日土曜日は午後からの開催であり、土曜日午前中での移動は結果的に影響が少なかったことを聞き及んだが、大雪によるけが人や事故にあった参加者はいなかった。

一部コロナ禍や交通事情等で欠席された参加予定者もいたが、ほぼ予定通り、40人ほどが参加され、無事終了することができた。

**<講演>** シンポジウム [4]では、「トリプトファンの生物学から疾病・健康を考える」をテーマとし、2講演を行った。ヒトの疾病・健康を考える上で、体内の微生物、外部からの食物・薬品をはじめとする異物摂取など、多種多様な側面から Trp および関連化合物の代謝を研究者各自が考える必要があり、今回のテーマを企画した。一般講演 [4]では、基礎科学・医療・健康等に関わる様々な学部・領域から前回（12講演）より多い17講演が行われた。

**<開催時のコミュニケーション>** 本学会会則第2条「研究者相互の情報交換、交流、親睦を図る」[1]について、懇親会以外での新たなコミュニケーションの機会として、情報交換会を開催した。1日目の途中で長めの Coffee Break の時間をとり、マスク会食形式で、会費無料の交流の機会を設けた。金沢特産のお菓子やドリンク類を設置した程度であったが、気軽に全員が参加することが出来た点が非常に有効であった。今後も同様の情報交換会を用意することで、懇親会に参加されない参加者にもコミュニケーションの機会を提供できるよう、次回以降の主催者に申し送りたい。

今回の金沢での開催は、食や文化を介した参加者個人間でのコミュニケーションについても期待されていた部分が大きく、参加者個別の食事会については規制しなかった。ただし、1日目の終わりには、情報交換会同様、マスク会食の徹底を呼びかけ、本会への感染症の持ち込みを軽減するよう促した。また、3年ぶりの対面開催であったこともあり、参加者全員での記念撮影を行えたことは、有意義であった。皆さん明るい表情で記念撮影に臨まれ、コロナ禍の暗い雰囲気を払拭することができた。なお、写真は、「撮影のためマスクを外しております」という、コロナ禍特有の但し書きを添えて、参加者にメール送信にて後日配布した。

以上のように、学部生・大学院生といった若い世代から大ベテランの先生まで、幅広い年齢層での研究者相互の情報交換、交流、親睦を図ることができた。

## 謝辞

日本トリプトファン研究会第41回学術集会開催にあたり、ご後援いただいた日本アミノ酸学会、学校法人北陸大学、ご協賛いただいた一般社団法人日本食品安全協会に感謝申し上げます。また、会の運営にご協力をいただいた、昭和女子大学の川崎広明先生に感謝申し上げます。

## 参考文献

1. 日本トリプトファン研究会会則、昭和58年12月10日、日本トリプトファン研究会
2. 太田好次、日本トリプトファン研究会第32回学術集会要旨集、p. 14、2010年12月
3. 池田啓一、北陸大学紀要、53、p. 229～230、2022
4. 日本トリプトファン研究会第41回学術集会講演要旨集、2022年12月
5. 内閣官房新型コロナウイルス等感染症対策推進室長、基本的対処方針に基づくイベントの開催制限、施設の使用制限等に係る留意事項等について、令和4年11月25日発行  
([https://corona.go.jp/package/assets/pdf/jimurenaku\\_seigen\\_20221125.pdf](https://corona.go.jp/package/assets/pdf/jimurenaku_seigen_20221125.pdf))、(2023年8月23日閲覧)